

## 事務局通信 Vol.43

## 《福祉課との懇談会開催さる》

11月17日、「市障害福祉課との懇談会」が開催されました。詳細な報告書（議事録）を現在作成中です。本号に同封予定でしたが、間に合わなかったで、次号同封となります。まことに申し訳ありませんが、ご了承ください。

## 《生活福祉課の精神障害者への窓口対応の研修会について》

昨年、生活保護の受給申請に関する市側の対応について懇談会の議題となりましたが、昨年の懇談会を踏まえ、本年より「相談担当、ケースワーカーを含めての対応についての研修会」が開かれております。講師として参加されたヒューマンケア協会の竹沢氏より、研修会参加報告が出されておりますので全文一挙掲載いたします。

## 生活福祉課の精神障害者への窓口対応の研修会に参加して

ヒューマンケア協会 竹沢幸一

11月24日(金)から11月28日(火)の3日間にわたり、生活福祉課が窓口対応の研修会を行いました。その際に八障連から精神障害者への対応について意見がもらえればと研修会への講師依頼がありました。講師と言っても講義ではなく、研修の講評や対応でのアドバイスなどです。研修では窓口対応のロールプレイも行いました。八障連からは9名の講師が参加しました。

私が参加した24日の研修では、グループホームから一人暮らしをしたいという女性が、世話人と一緒に相談に行くと言うロールプレイを行いました。

講師からは、通帳確認の際に世話人には確認したが本人には確認していないのでは？というコメントや、精神的の当事者は約束出来ないことや計画出来ないこと自体に本人が生きづらさを抱えているというコメントなど、本人の立場にたって話を聞き制度を柔軟に活用してほしいというアドバイスをしました。

この問題は、八障連でも数年前から関わってきた問題でもあります。精神も含めて当事者が窓口対応で傷つくことが少なくなるように、生活保護が必要な人に支給されるようにとの思いもあり、生活福祉課に障害理解を深めてもらう研修を行いました。来年以降も引き続き研修が行われることを願っています。

協力してくれた講師の方々：沖氏(GHくぬぎの杜・八王子ホーム連)、八町氏(地域活動支援センターあくせす)、竹沢氏(ヒューマンケア協会)、久米氏(GHくぬぎの杜・八王子ホーム連)、杉江氏(GHメゾンコム・八王子ホーム連)、多摩草むらの会3名(ピアサポーター2名+同行スタッフ1名)、古明地氏(GH駒里・八王子ホーム連)

## 《今後の八障連活動について》

「市議会議員との懇談会」が2月開催予定で、関係団体と調整しております。取り上げてほしい課題等がありましたら、八障連事務局までお知らせください。また八障連福祉フォーラムは、3月17日(土)、学習障害をテーマにした「DXな日々 美んちゃんの場合」上映が11月の運営委員会で決定されました。詳細は決まり次第お知らせします。では、皆さま、よいお年をお迎えください。(八障連事務局)

## お知らせ掲示板

- ◆「市障害福祉課との懇談会」の報告(議事録)は、次号同封となります。
- ◆市議会議員との懇談会は、2018年2月開催予定で調整してます。また福祉フォーラムは2018年3月17日(土)の開催となります。

(八障連事務局)

# 2017年の八障連活動を振り返って

八障連代表 杉浦 貢

2017年の活動を振り返るに、悔いの残る年であったという気がしています。

『八障連の内部だけに限らず、広く市民に向けたイベントの開催を』と、意気込みをもって望んでみたものの…当初想定していたものとは大きく内容を変えなければならない形となり、開催自体も、次年度以降に持ち越す形になってしまいました。

自分なりに、『新しい八障連の形を模索する機会になり得たかもしれない』と考えるだけに、悔しいところです。今年度の反省を活かして、別な形で実現できればと思っております。

二つ目の反省は夏頃から秋にかけて、大きく体調を崩してしまったことです。ようやく夏バテが治ったかと安堵してから、幾日も経たぬうちに、長引く風邪をひいてしまいました。おかげで、八障連の代表として出席しなければならなかった会議にも穴を開け、運営員会も何回もお休みさせていただく事になりました。年齢による衰えもありますが…自分自身、日々の体調管理が甘かったと反省しております。そして…この原稿を書いている今の時点でも、万全とはいえない状態が続いています。

今年度は運営委員の中にも体調を崩される方がおられて…将来に向けての八障連の活動をどうしていくかも、無視できない課題になっていると感じます。

## 来年の抱負

市内の障害当事者、支援者を取り巻く環境は、ここ数年で大きく変わりました。八障連の加盟団体に限っても、どの法人さん、どちらの事業所さんも日頃の活動業務に追われて、同じ八王子市内にありながら他の法人、他の事業所の顔が見えにくくなっているのではないのでしょうか。

希薄になりつつある『加盟団体同士のご近所づきあい』を八障連で仲立ちできれば…ということも考えましたが…なかなか思うような成果を出せずにあります。

もしかしたら、今後は八障連自体の活動の規模も、縮小せざるを得ない時期に来ているのかも知れません。しかし、いかに規模が小さくならうとも、『障害当事者と地域社会との接点としての活動』や、『障害のある人と無い人とが、

互いの顔を見て話し合える場を作る』という二つの目標を大切にしていこうという取り組みについては、今後もずっと続けていきたいと考えています。

いろいろと迷いながらの歩みではありますが、もうしばらくは頑張りたいと思っています。先行きの見えない日々ですが、前に進まなければならぬ始まりません。年の終わりに弱気なコメントばかり並べてしまいましたが、来年もどうか、ご支援よろしくお願いたします



NPO フェスティバルで車いす体験を実施しました



「障害福祉課との懇談会」への参加、ご苦労様でした。





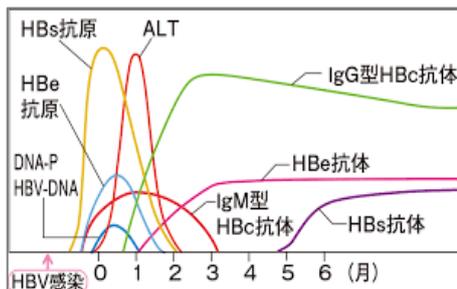
連載コラム

## B型肝炎闘病記

パオ 小濱 義久

### 闘病史 その18

**私**が1977年から始まったステロイド離脱療法の治験患者となったのは1983年で、開始から既に6年



が経過しており、実績も積み、ほぼ治療法としては確立したものとなりつつあった。実に7~8割の慢性肝炎患者が治っていたのであるが、治験患者として百何十番目かの私は、典型的な成功例とはならず、くまった患者(熊田 Dr)であった。

1983年4月に治療を始めて、約1年近くもかかってやっとGOT、GPTが正常値内に収まるようになった。肝機能値が正常値内の治まるようになって、ひと安心とならないのがウイルス性肝炎の厄介な処である。B型肝炎ウイルスが消失しない限り、再びウイルスが活発な活動を始め、肝臓を攻撃し、肝硬変、肝癌へと進展していく可能性が大きいのだ。

治るとはB型肝炎ウイルスが消失し、ウイルスに対する抗体ができるという事である。一口にB型肝炎ウイルスと言っても、単純ではなく、HBe抗原、HBc抗原、HBs抗原、DNA、DNAポリメラーゼというもので構成されているウイルスの全部の部品が消失しなければならないのだが、当時全てが検出される段階まではまだ至っていなかったように記憶している。一番質の悪いのがe抗原で、他人への感染力も強く、肝臓細胞の破壊力も強い。HBe抗体陽性になるとHBe抗原は段々消失して

行く。このことを血清変換(セロコンバージョン)というが、私もこのセロコンバージョンを目標にしていた。

最初にB型肝炎ウイルスのキャリアと宣告された駒込病院では、10人に1人しか発症しないと言われ、その1割の中に入り、ステロイド離脱療法では治らない2~3割の中に入り、何と運が悪いのだろうと恨めしく思っていた時期がある。1983年7月30日に退院してからは2ヶ月ごとに外来に通院し、肝機能を調べていたが、1974年2月初旬頃不安に駆られた私は、2月21日の早朝に熊田 Drの自宅に電話をしている。その日の事は昨日のように覚えている。かなり動転していた。

**そ**の3月に復職してからもGOT、GPTは正常値内に収まり続けていたが、セロコンバージョンが起こる気配がないまま日々が過ぎて行った。記録が手元にないので時期は全く分からないのだが、ある外来日に熊田 Drよりセロコンバージョンが起こったと言われた時のこともよく記憶している。心の中では飛び上がらんばかりの歓喜を上げていた。直ぐに私が発した言葉が、「先生、これでお酒を飲んでも良いですね」だった。嬉しそうに頷いた先生の気持ちの中ではビール1本位だったかと思うが、もう治ったと確信した私がお酒を飲み始めると、元々強かったの時にはかなりの量を飲んでしまった。ベロ〜ン、ポロ〜ン。チャチャチャ。

